

# 仕合わせの和



第180号

H. 29. 3. 1  
(毎月1日発行)

## 命のルーツ

住職 谷川寛俊

去る2月10日発行の『日蓮宗新聞』に次のような興味深い記事が掲載されていた。

「高齢者の定義について」という事で、一般的に65歳以上とされている高齢者の定義について、高齢問題の研究者らでつくる日本老年学会と日本老年医学会は、今年1月5日に、75歳以上とすべきだとする提言を発表した。65歳〜74歳は「心身とも元気な人が多く、高齢者とするのは時代に合わない」として、新たに「准高齢者」と位置づけられました。確かに昔の70歳と今の70歳では、かなり違いがあるように感じます。この「准高齢者」という呼び方を、これまでは前期と後期に分けられていました。仕事やボランティアなど社会に参加しながら、病気の予防に取り組み高齢者に備えるという意味で、

これからは「准高齢者」という呼び方に区分しましょうと提言されたようです。その提言を詳しく説明すると、今後は75歳〜89歳までを単に「高齢者」と呼び、90歳以上を「超高齢者」と呼びましょうという事です。

私事で恐縮ですが、今年6月で69歳を迎えます。一説によると、我々僧侶の世界では60歳からようやく一人前と言われた時代がありました。それから考えると、私なんかはまだまだ駆け出しで、これからということですね。いよいよ本腰を入れて頑張らなくてはいけない時が到来した、と自覚を新たにしているところであります。

また、現在日本の平均寿命は83.7歳。世界保健機関(WHO)によると、世界全体の平均寿命は71歳で、日本は二十年以上連続で世界一位を保っているという。しかし残念ながら日本人の自死率は先進国の中では第1位で、高齢者もかなり高いとも発表されています。

「仕合わせの和」  
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

「自死(じし)」という言葉が耳にする度に、いつも思うことですが、私達のものではないという事を。私の命は、親先祖の命を生きているんだという事を・・・。

日蓮大聖人のお手紙の中で、私の最も好きな御文章の1つをご紹介します。これは日蓮大聖人の熱烈な御信者で、後に現在の千葉中山の大本山・法華経寺を建立された事でも有名な、富木常忍(ときじょうにん)という方が、亡き母親の遺骨を抱いて身延山の日蓮大聖人をお尋ねになり、その帰りに大切な「法華経」の経本を忘れられました。日蓮大聖人は「あなたは日本第一の忘れっぽい人ですね」と古今内外の有名な忘れ物の例を挙げられた上で、「我が頭(こうべ)は父母の頭。我が足は父母の足。我が十指は父母の十指。我が口は父母の口なり。たとえば種子と果実、身と影との如し(忘持経事(ぼうじきょうじ))」

と、有名な御文章をもって、自分の命は親先祖から脈々と受け継がれていることを暗に示されています。我が頭は父母の頭の如く、私達の体の中には、両親、祖父母、そして数え切れないほどのご先祖様の血脈が繋がっています。その中の一人が欠けていたならば、今の自分という存在はありません。自分の「命」は決して自分1人だけのものではないという事を、「寿命」ということ、「命」の尊さという事を、今一度考えてみたいものであります。

